一茶發句集 上

帝國圖書館藏
帝國圖書館藏
ヘ 第1 5
1963
1

特
へ5
1963
1

宗永代申新雑

俳諧 一葉百歩句集

東都畫林 山崎屋佐兵衛

[illegible]

上野の坂本町本所番場のいとなり
なる八屋も行燈をともしおきて燈芯
をかへ或は家業の鍋の時以ておかれ
たる所店屋の行灯を事をもとめ給
かるみの料理を料理するしるべ
大へたる事事をいとやすけふ
世をいとやすけふ
世をいとやすけふ
みハ寄後吸法人只
四方遊廓の先
ゑ〻〻数白文章も
書もまた所侍

願を弱き縁をたゝしまもる和歌のう
ひ家一世の俳諧をもとし彩る文政丁亥
の春黄泉の家をたゝしのち門徒
集りて反古物をたゝ亀一か作を編
遊のさのたゝしられハ巻ハ
なりたる事をしやうの
みなん大すしをかたりて自集以て
寄るれ作者を巻板をのひのの
ゆゝ世年れ本やけるを板をと

出雲国某郡の産まれにて刪補を
こゝに寄せるものもいくねんかの集
結上より自他の耳底より絶消
息やうやたたんとしたるに出でゝ
てこのまゝに始まりたるあき業を
さてしたん

弘化丁巳孟春　俄洲孫一具

大のうち人の為ものうしなひ
ぬるはもとよりなれどのうち
おのづからのきたるものの
ほかなるものをもつて
ほかなんものたるべきこと
よりて行うちはたのの
きうかうはもとうちの
おもひおもひまひもを
はつはつ嫁おもひまひ
一つのものの人はもとうち人

大のうち人の為ものうしなひ
ぬるはもとよりなれどのうち
集のうちのこのよりたるものを
ものうちのものをもつて
ものうちのものをもつて
ものうちのものをもつて
かう一新の集ものうちのうち

天保十四年三月つゝ
[illegible]川の清流の
[illegible]

櫻園主人

一紫裝句集上

春の部

元日や上こゝまでは世界
元日や三の丸人間の居所の
春立てもいのゝ上野山
出[illegible]このゝ筋遠ゝ
春の山[illegible]
行[illegible]家の世[illegible]
[illegible]

春立や蓬の芽のうへまさる

新歌賀

春立や面おもちは四十路にて
行く末の春立つ人の為しるの春
初空くもり出し物みのを窓にうれし

芋尾　二白

菴の春蓬を摩る程を露ぬり
我春も上へ告ぬ人の春
三崎の井を西女物木の
うつくしきうつくしの
芋水のうつ物きく人年波きう

芋ゑやそうと伝き西物の春
菴葉や唯三文乃序代社松
蓬葉ゆ春春くと云ふ結うの
富士の西ゆ
初春や子代社たゆ春立ゆ
初春ゆ月数とうう始人乃殺
長谷の山中ゆ春繋うて
我ち春ち清傍の新たう物の春
福ゆうや十さのう物る仕如
小兄の行く仕きを

かゝる物ゝこの細てきくぬ門の松
待ゝて芝ゝ出ゝ生ゝ子のゝうれ
物てきき牡ゝ牝ゝ門ゝ家い
小松引ゝ人ゝ人のおゝの色物ゝ
我屋や常きの手出ゝ水数
初夢ゝ猫ゝ不二ゝ高ゝ武
迷ゝ寄ゝ子ゝ祝ゝ五十聲
大聲ゝ世ゝ色ゝの御箸案
鳴猫ゝ赤ゝ目ゝ手ゝうれ

猫の画千

人の夢小ゝつゝ代ゝきゝん
脇差の柄ゝ長ゝ茅ゝ
垢ゝ乃ゝ蓑ゝの前ゝ
天神系
ちさゝ子ゝ麻上下ゝ柳ゝ
柳ゝ木ゝ歌ゝ
柳ゝ物ゝ盗ゝ大夢ゝ
柳ゝ木ゝ物ゝ
鉢組ゝ一ゝ
ゝ物ゝ芝ゝ咲ゝ世ゝ数ゝ柳

梅干月以やとかゝあハるうゑ
荒芝ハ芝ハ芝やハ行のくゝ梅の
園十郎
咲くゝ五位生めきのゝ先ハ
梅折や芝ゝ窓のもるゝ新法師
信濃云葉
赤以ゝ芝ゝハ行のゝハ也ハ梅ゝ
相馬賀古
梅ゝの多や
梅きゝゝや高玉のゝも素多先ハ

月以梅酢のもんゝやくゝもゝ
笠きゝゝや芝ゝ先の咲日を告日や
山常よりも先ハ生ゝ
新雪を蓋ゝ行ゝ芝ゝ
二歩刺の紙芝ハ
下戸村や芝ゝ先ハ
和梅や芝ゝのゝハ二本まで
梅の茶を盗めゝ芝ゝす月ゝの
芝ゝ殺ゝくゝ人ゝ生ゝ芝ゝ梅の茶
高原
入口ハ右以芝ゝ芝ゝ梅ゝ

皮剥う鷹う丹柳まゆみ
蕾茹多生行て也さし柳
の柳を言て言て遠へ
人参まゆみて茹多柳の
犬の子は姫まて成る柳
蕾て生んとして鳥て柳の事
蕾光る堂
白猫のやうな柳を市茹の柳
市茹山
蕾も親子は生て先や柳を生

之は角や姫て柳て蕾の
蕾みて行て行て行て柳て
紙の柄を蕾みて小柳まて
蕾は目利して行く我茹の柳
見経て上蕾を四舎の柳
蕾は生て侍て侍て組屋術
袖下て行て蕾や小せて越
松宝の紙
蕾は紙を生の多経根て
黄色や紙て柳の茹

[illegible]

閑正月

正月の[illegible]

[illegible]

[illegible]

牡丹

[illegible]

[illegible]

牡丹餅を喰ふて霞島の邨

霞日や多山の寺社詣の笛

霞り[illegible]志人の[illegible]て大産繭

横雲や[illegible]の[illegible]や夕霞

霞寺の[illegible]以岩屋も迹の村

蕉翁を尊ぶ

はつの霞先生牡丹や墨田の鶯

墨屋の窓の梨

老牡丹[illegible]

雉子[illegible]以[illegible]霞

雉子[illegible]志生[illegible]霞先や門の[illegible]

年ごとに霞人を籠て小家を
某母八十八賀祝
門畑や菜の字まつる社壇森水
雲解や つ寺の崖乃十五日
行き角や もちまつる社の紙子雲
猫の尾ふり ふくらむ壇森の秋
雪解や 鶯こゆる三上三郎丸
世を行れ小男まつる森やつの壇
菴の壇ひまを渡 渡橋しまり年
つ前や 杖を法ふ壇森川

三日月出ぬ 雲こゆ小屋の下
叢入や 三組一所 小柴田 芝
藪入や 墓のまつる風ふくし 吹
芽出しの ふくらむ小屋のうつり
出や 淋しく 鶯の小屋と 吹 畑
藪入の ふくらむ 雪や 菩乃 月
居拜賀
福の来る門や 雲山乃 松笑ひ
かくれ家や 猫ふくらむ二日 雪
初午

花の世を安家孤明み春の
嶋も持ち無口なる人つき藤波
枝を入れ直しく苔の清泉の流れ
山曉の明りなる枝毎の火
畑打やるの遠歩行清しき
畑打や田の鶴帰るる辺を
一年を養ふ親を思ふ
云人うるなり
出代や什の家なる前て亦
出代や明るくも如何し物の
出代の市まさに仏や五十点

二月十五日雪降る
昨の日の雪降る雪の降る涅槃和
尚祥忌や雪の十五日
かるるまい品の降る雪の降る
雪てくおもてくも仏よ雪の降る
雪てく数てくも大空てく猫の恋
蕾に莫の雪恋まりて猫の恋
つ蕾の明てやりわれ恋
おくおくおくし通はまりくれ猫
くの水猫寄の妙を蕊て寒りあり

恋猫のなくのしぬうらみ夜かな
子の水猫とのつくさけうし又来て押
行のけ於語侵よ歩くや小田の原
彼岸とて袖に這入る風しかな

枚橋

かしましや江戸見さ原の帰り梅
春さ路の原も跡も帰る原

室町二十九ところは面々も
衛おこりかれハ新助く
及地節首千しの弟で足
法ゆて刎の南田堤みのて系
束ねわりくと出ゝ入は
小叢小叢ハ吹きいゝのうき

しのゝに上のあるきのかまや
川の西千天地丸赤く吹
子の見て田中ハ新ゐ花も
作りこ杢垣まちとしく板坂
見くしの茶のく古ある行吹
尻尾くりて徘徊に無名の茶木千
咲うるも表雪に代し法了先で
度出代とかの人々さ見て侍る

五百崎や御舟ものんで帰る原

蓍苑

昇階に行のや雀も親子連
雀子や川の井にて親を呼
雀の子ともの身の馬ゝの通る
牀子吹き梅にいさとや親もとめ

我と来て遊ぶや親の先立ち雀
雀子や如何ぞ水の流るゝ
荒磯もなれば蘆を生ずる雀の子
雉子なくやきのふ焼野の千代の松
雉子なくや夕月さゆる山の端やゆふ
夕雉子の先づ宮詣や時の海
黒つぼやゝゝ雉子なく夢
雀子の先づ学ぶやうの浦辺やう

猫性

如何ぞ子ゝまでもる猫の乳

猫性のそゝかしの峰猫
新茶とて尽くさるゝ上産年の猫
向ゝみ猫の吹くゝ先づ出るこの猫
先づ出るこの猫深ゝ峰猫
我と来て苦しいの深きる猫の乳
奉ゝのゝや猫を産む猫
玉川やまつの先ゝ猫の八つ
吹くゝ先づゝ山を産む猫の猫
甘酒やゝゝ踊りの踊りより峰猫
産さゝる猫を産むゝゝ峰猫

我庭や蛙初つきのうら岩を啼

第歌

新歌の古風を捨ぬ毛者の孔
夕ゝ有る我よりも望の河ゝ也
屋めゝ先庭の蛙鳴る雲仙
樓豪の高ゝ也ゝ多ゝ也ゝ雲
野大根の出ゝ高ゝの時雲雀
啼れ既に世話を吹う窓
祥風や既の蛙の山の色
小男花年手拭いのきん角の跡

小男花の蔵ゝ角を枕の形
角おちて和ゝ年寄り山の若

奉納

おんなゝゝ妹の委任羅寄ゝの孔
妹恋や生世の雲ゝ高ゝ也ゝ年
ゝ年ゝ生ゝ恋ゝ小雄雲の妹
大猫の屋屋ゝ高ゝ小妹の角
妹寄ゝ学ゝ寄ゝ屋乃先
葬ゝゝゝゝ人名妹の生ゝ年
四ゝ細ゝ年ゝ葬の小妹ゝ孔

川の蛙手の這へハ飛べハかな

小男苗や蛙とひこえ出て成家

傘の春や出水を出て来る小蛙

ふるさとの娘の姉の案内しまた
俄雨ちらりとふりかゝれハ

草の陰やたゞ居ながら絶生の縁

樽木町上人

陽炎や出川のうへの清法談

うち昇るや白の中のうへ一筋

古寺さや垣根を覗く山の僧

陽炎や子をかゝえ乍し親の恋

古寺さや法名なりの竈の月

陽炎や手々下結ひの菩提寺

山ハ河来て渡ふ小村かな

美しき山ハ河の夢の白小屋

我前に種をや隠してたのむ庵

かまえやむのしとねさの千代様

菜の古や霞の裾に出し浮

陽炎や枯木やうぶの岩の山

小金原

蝶行や古寺ふ暮に浮ぶ舟

かゝる程川の菜の花咲て行
大菜小菜咲かさなる花畑
春の日や夢のこる東山
三些ゝの花を語るや春雨
傘さして箱根越ゆる春の雨
新市に大船付や春の雨
帰路の赤元結や春の雨
餅買に箱提灯や春の雨
春雨に大火ける美人ゝの郷
福々帯の垣の嬉しや春の雨

春雨や咲送り花鴫の峰

春甫新宅祝

家造して嵐を凌るよ春の雨

婚禮

春雨や我に我生た松の声
春雨や嵐の芽吹く角田川
穴蔵の中まで水の湧く春雨
買手ある藪子好見ゆる春の雨

嫁以来ありし回

楽よ流して直世清まりの雨

水江長者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物いの嵐[illegible]

不思の波よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

永のゆめ[illegible]

永ゆめや半[illegible]

[illegible]

我宮[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上巳之部

浦風に花の香以て以ての花
蝶けふは花のも上巳を祝はれける
花咲桃での里の節に盤出の里
盃よあり流れ出る三日の月
筆流てかける盃流し歌書
川下や果を[illegible]よりのふ盃
人出杯を持も雀も汲干その花

如痛酒醫

花を折稍子なと取し歩ゆかし

出のゝのけ菊花さん出来花のり鶴り
かり活て花もふきをもの陰

三月廿七日保科信

花ちるやと入つる木陰も小屛帳
人[illegible]しての一人り夫り花ちり陰
おとこや出を折るも口出节家
出の木を静森るや涉花も

歡壽亭純

只の先もの花飛しく[illegible]を追り
山の月出盗人を照し　けふ

世はいかなるは他人ハ為ものとき
堪忍をいとゆゑやむのみ

刈萱堂

苅の世を地蔵菩薩おさなき親をすてゝ
苅の本はりつゝ生ける果報のみ

大和尼
美濃にいとゆゑ人年孫乃
かなしなよ迷ひよりの世の雲
その世や猶も牧子も出し笠
いとゆゑを我も苅より関をいのれ
苦の海傳やむの井寺ハ迷

さる人を病毒をつゝ出し
新告京

行竹

吉所

桂宮の腮をそる猶の形
猶ゝ見えゝ先ゝ猶形小
一朱ハ猶ゝ出ゝ海傳乃役
出やゝ去末世を猶ゝ出ゝの
人参ゝ為ゝ出ゝ
奉ゝ猶ゝ出ゝ

もろや我八汝しの八重さくら

袖ふけの移も櫻咲ずなき

山櫻法も剃おて咲ふ出家さ

傘ふ庵くりと付し櫻くの鄉

夫くのうても俤くるやうふ櫻くの札

右六町隣太の菽 麻呂殿
前の日よりう鶴し垂右する
この札さりけしうりとて止枝させ
とそ望の命待てその八咲て
君うひとく来てりし子ふ華
懐ずみ花集く吹やさふ
あれ八去るき宴竟の句出来
太のき

櫻くの咲唄きれし老木くの事

一枝さ子櫻八さく笑おきくうれ

下くふ生れて我を去くくの水

小坊主やし歎の性しり山さくら

雛雞哉

ぬらんとや櫻の去を将なくのり

櫻草と咲ふ影をとりて

我國ふ草も櫻を咲ず去り

今ぞこしたしなくもいの名菫 草

百両の咲しふ法り八つ法しけり

芸州や小野寺乃子佐保
あるは日の入所あまり藤なりせ
茶毘の事を数多しくして
出で居る山のかたへ移りゆく
といふ日は三月廿日なりけり

蝶ときき笠に桜は降りしのれ
実の代の大きし咲かで桜の子

根岸にて

山吹をとりしきりて垣根しの花
熱くるてきちんとうる蚕しのみ
拝まつる幸は育られくる蚕の礼

やよ見ていく遠へいく春の行方へ
菜も流るる無杉も経りぬ丘の花
蝶りし色翌日あさきまとまる笑ひ数
ゆかりしかく春への汀とよ野辺の草
陽炎は内への道はなく生きの水

地獄

夕月や編は中より帰田はし

餓鬼

白萩や香くさき水も売る　露

畜生

教主釋尊は佛法を修行し給へる無量の功
德
[illegible]年壽の本信の佛子の者
人間
[illegible]出生の処
天上
[illegible]天人の所居

夏の部

下品一番 [illegible]
[illegible] 文衣
[illegible] 若衣
[illegible]
文殊の書付行国の [illegible] 初 拾
小兒の [illegible]

たのもしやてんぢくのさらし袷
春の野に鶯なくや喚子鳥
東雲のかすみ
人麿の歌もしらぬ雪の岩衣

芋尾

世の中を思ひ入れこそ
ふるまひや赤の袖の小袖種

大山詣

四五日は木曽の力をこの袷の
夢にはあらぬ歌枕

永日のふつかの写しかな　泥生仏
雀子のおもひ
うぶ毛のこのはさん出たり　牡丹
扇子の尺をかくる牡丹の
葉陰豆の赤の実みかく小大
大江戸やおもひ出おもひ出　牡丹
鉢のわかはあまれる交出れ
淵柳の芽ぶくしもとかな
陰家や花さきれの芽ぶくし
夕べの雨や鶯は小鍋の夏茶杓

[illegible]

通路年 [illegible] 杜若

二十四季紫苑只一枝夢

[illegible]

葉の木を坊主にせられ [illegible]

事 [illegible] 集の中 [illegible]

和の也 [illegible] 代の [illegible]

和歌や句の目初 [illegible]

我と今は咲しん [illegible]

[illegible] 庭や [illegible] 集 咲

[illegible] 桜の [illegible]

四番 [illegible]

和の也 [illegible]

菴の苔也 [illegible]

掃寺

[illegible] 掃 [illegible] 本下雪

法法の [illegible] 文本主

大き [illegible] の体 [illegible] 文本主

[illegible] 病 [illegible]

首くしけの水まさるそよくわ麦このめく
世ハ半くさかとよけ器物その因
若竹と呼ぶもくうもちもさうれ
ひつまれの大器物そ見ぬうもみ
鉢まもるぬ器くの研るまもくの事
老器まもしくの事
一鉢をさつくる国年
我汝をけ年えきし時者
是くもさ法時者ハ身自
這度るけのトようもくし
時者俗名菴とくみもる郷

ほくもくやくや法師のぬるわと
法面年のつくもきもし時者
世もくさを我まくつをぬ子状
結西八京者人稀つ所よ
時者堀もり先くもよつくゆ事
郷のももちくにくこの留記
先住の法師ようもり宗古者
宗宮
古日の郷月八日を陶古者
高野山

地獄へ堕ちて苦しみ給ふの罪古今
無の世界おほきなる罪なり古今無
雙なる口法きゝ方なり蓋
目出たき事なれども蚊も喰ふ人
蚊の苦しみを知れやく寄る人
有難の至尊蚊の如く嚙ぶる事
蚊柱のおほのごとき様なる事
蚊ばかりかは我者の法を知る者
我者の法を知る者は自然の如
外國を笑ふ事

屋の蚊柱者やもの器をく
我者を笑ふ者は出る蚊の如
偽人や蚊を出さるゝ如
屋の蚊や笑ふ出さるゝ如
蚊柱の笑ふ是ゆる者の如
事業ばかり笑ふや明蚊も耳の如
業衆や笑ふ蚊の如
蚊の親無明風年笑ふ事
年月の仏を笑ふ出家の如
屋の蚊を法の如仏の如

昔よ老をすつるといふ州の姥
姨の子ならはさりくの身出まさね
かなしりや是らハ汝が為圍へ
まハて暗る素子ともありの通し鴨
捆しても蝙蝠の世もよかりけり
何やめ花を長門ハかゝ野に踏なり
吉隠にゝのかゝ久のけふ里地の花
羽蟻出るまて闇せき程の秋
なけても蝸牛をうかれて行くなる
誰り出るハ比叡の蔓ふて

年寄の袖と思へてや冬くの日
ゆくゝの日なとかゝんてけゆらり

妙義山

五月雨や森もかゝれ山の穴

粒々皆辛苦

それハ花や昼寝しても田植唄
信濃路や上の上なる田に思ふ唄
身一つをもてなされぬ気なる女
おのゝの里住罪てとく田をを思ふ笠

住よし

唐人古見より田植の笛を殺
す乙女や笠手にうるる笠の
稽古笛四方に出とくく吉みより
夜を徹せ一夜の世人やそなの自
夏山や雲ときあんの女郎花
ちくさみなるを折りうる女の月
小舟うや茶釜の中の夏蛙
茶の出るを聞くと聞くと聞みより
松茸より竹の根を直り茸より
起くよ憩目引きる青田うれ

雲雷や雲の来る茶釜の吹みより
夏の松や二軒しき茶屋の出
源氏の影まで
夕べうや男結乃恒年さく
日く懶怠不惜才情
うみの日は特の宝よ望は又
云いき特うの又もうみて深きうり
手特や特なる人特のうきき
ちちはうるる結ふに家うう
張くく蟬の吹也特毋の形

雛のまねをしよう幼君子供なれ
初蛍はつとまぎれる手風への水
宵越しの川を越よと姫蛍
中々蛍にうく人の噂かな
大蛍ゆらりゆらりと通りけり

不忍池

蛍火や嘆し無く八橋先へ
きれいさも蛍と成らハ墨田川
夕月や大きく独りてそろ通り
我袖を親とこの迷ひ蛍

里俗ハこゝつ忘れき
たびつとりま

生田の降まくさへ見るの水
新や中年へのよろこ先しりしの瑠
宗の左や鏡の数りみゝのゝ清りて牛
如く清りて抜ろく紫れ不二の山
春のくみ家猪への係寄り桐抜る
六月や自秋見への什り蝶拂

小倉家

母にての齒しに呑け清水の私
山里八ところの年中清水の私

人来ることはなかりけり　広
初瀬にまうでたりける時　藤原のあつ
ミ
ながらへ井中小魚と遊ぶ人　広
猿人中山水出しの井てんを
　　無限歌有限命
世尊は不思議なりけり　業
猿中生をめてなかりける　変座
生のけ中庵をくるる山　面
ゑなれかりける庵の丸

毎山中庵義しみ所自教
文等は徳は法をる庵の称
乞松中今年生は赤庵
小座法の玉無てのみる庵の事
四の人は見ても和しなきき
猶乗坊生は生活中を絵の如き
名れハ之男子を見ることを
蜘ゑみは等生を知てて拙ることく
蜂は中秋節も石ゑ生ることゑ
蜂は中天ゑ名つ法く花摩門
移のまるを念仏生をけ変の蜂

豊年の祭りとて行事うつの堀
堀一ツ〻〻八南条にあり仏〻の
世うとくなりてもつくれ級の堀
付よ堀を過ぎる時うの水
やれ〻古き堀の水をうる
ものもやうやう蓮花とふ蓮拾ふ
蓮の跡のまく為のうち信乳うれ
蓮焼て日和占の山蓮の水
蓮の葉や世の中よく堀さく
山蛭の花りかの中を通り事す

水の堀とうとを呼てみなる
新蓮祭
源〻とも郷の中うとう無中り蛙
長南条にけを過る
源〻のうん意ゝ口のうち加義の水
古國指上
下見てもかう國〻の源舟
源〻とも蓮を堀て蓮実ふ
四条行条
源氏年月ふる信て二文〻の丸

源氏物語

[illegible]

[illegible]

人形町

人形町の源氏

[illegible]

[illegible]の海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏屋の陰きいろ行信を
深谷の曲りくねり来りもり
丘の麓や蓮の咲きて戸葉淋
蓮の葉よりも出でて蓮の葉や
もりもりもりもりきとりもりまり蛙
蛙屋の先の先きの蛙の蛙うれ
泊井峠より
信濃路の山の蛙の蛙の蛙の蛙
蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
蛙者西中

蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
蛙直信の蛙の蛙の蛙の蛙
蛙角の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
戸の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
城の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
御水の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
投出の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
川の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙
川の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙の蛙

玉川

萩古き屋敷に住やすらん
麻の葉よ修紙畫て流しけり
形代をとゝ吹ふせ萩さく岐
形代よさゝハゝをさるゝ子ゝの事
竹籠のやゝ生も昭法後ゝの雜